

令和元年度第1回加美町総合教育会議議事録

開催日時 令和元年5月17日（金曜日）
午前10時00分～午前11時45分

開催場所 加美町役場宮崎支所2階第二会議室

出席者 加美町長 猪股 洋文
加美町教育委員会委員 大場 幸 同 委員 田中 美知子
同 委員 鎌田 稔 同 委員 大宮 信彦
同 教育長 早坂 家一

事務局 総務課長 佐藤 敬 教育総務課長 二瓶 栄悦
生涯学習課長 上野 一典
教育総務課長補佐 伊藤 一衛 同教育総務係長 越後 靖之
総務課長補佐 遠藤 伸一

議 題

中学校再編基本方針の見直しについて

午前10時00分 開会・開議

○佐藤総務課長

只今から令和元年度 第1回 加美町総合教育会議を開会致します。開会にあたりまして、猪股町長よりごあいさつをいただきます。

○猪股町長

令和元年度第1回加美町総合教育会議を開催しましたところ皆様方にはお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

旭小学校が閉校になり旭地区で新しい住民自治組織の立ち上げを行っています。来年の3月を目標に地域運営組織を立ち上げます。旭地区にはコミュニティ推進協議会という組織があって様々な活動をしております。このコミュニティ推進協議会と今つくろうとしている地域運営組織の違いは、イベント型から課題解決型に変えるということです。コミュニティ推進協議会はイベントを企画して主催することが

主な仕事ですが、町が目指しているのは課題解決型の組織なので、自らが地域の課題を見出し、課題を解決するための組織です。例えば旭地区で空き家が増えてきています。この空き家を活用して、よそから何とかして移住者を取り込んでいこうと。もちろん町と一緒にやってということになります。自分たちで課題を解決していくことです。自らの判断で課題を見つけ課題を解決していく。これまさに住民自治組織です。これを町として確立していこうと、これを全町的につくってまいりたいと思います。

私が何を言いたいかというと、このような組織を支えていくのは人材です。今求められている人材は、自ら課題を見出し自ら行動し課題を解決していく人材です。これは子どもの頃から学んでいくということです。単に学力が向上して点数が取ればいいと、そういう人材を世の中が必要としているわけではないと思います。基礎学力はとても大事です。しかしながらその基礎学力を生かすのは、自ら課題を見出し課題解決のため行動していく人材だと考えます

今日は中学校再編基本方針の見直しについてご意見をいただくわけですが、やはりこの義務教育についても、そういう子供たちを育てるため、加美町を担う子供たちを育てるため、私たちは教育環境を整えていかなければならない。そのために中学校の再編も必要なんだと。大きな観点にたって考えていく必要があるだろうと思いますので、よろしくお願いします。

ちなみにパラリンピックについて、チリの選手団が9月にカヌーとパワーリフティングと3人ずつ加美町で合宿をすることになってます。ぜひ青少年に努力している姿を見てほしいし、彼らと交流してほしい。そのことから得るもの、正に生きる力を学んでほしいと思います。町長部局と教育委員会部局が十分連携を取りながら進めていきますので、よろしくお願いします。

○佐藤総務課長

それでは早速議事に入りますが、議事の進行については、猪股町長の進行で会議を進めていただきます。

中学校再編基本方針の見直しについて

○猪股町長

それでは、中学校再編基本方針の見直しについて説明をいただきます。

教育総務課長：資料説明

○大宮委員

私が教育委員になる前のことですが、前回の統合の時、検討委員会で答申を出さ

れたものを教育委員会で覆した。そういうことが不信感を招いていると思いますが、その大きな理由は何だったのでしょうか。

○二瓶教育総務課長

あくまでも諮問ですので、諮問どおりしなければならないという法的な縛りはございません。ただし、諮問をして答申を受けているので、その答申は非常に重いものだろうと考えております。前回どこまで校舎の位置等協議されたかという詳細な記録は見つけれなかったのですが、私どもが今見ている中では、いわゆる学校の教育施設という部分の協議・検討が十分ではなかったのではないかと思います。本来学校の教育施設としてのあるべき姿ということからは若干外れたような内容の答申だったのかなと、そういう部分も踏まえて当時の教育委員会で考え方を改めて整理した結果、小野田中学校の方がいいだろう言う結論に至ったのではないかと考えております。

○大宮委員

検討委員会の諮問は大切にされるべきものですよね。重要なことだと思っておりますので、今回はそういうことは絶対あってはいけないと思っております。しっかり検討していただければと思っております。

○田中委員

私当時教育委員になってすぐにこの統合のことがあったのですが、教育委員全員とも小野田中学校の方が非常に利便性があるだろうということになったのですが、それを町長にお預けして、それで時期早々ということになりました。

小野田中学校になった理由は、一つは動線が宮崎中学校は悪いという意見、それから小野田中学校には視聴覚ホールがあるということ、学年ごとに集会できるスペースがあること、それが非常に利便性が高いという理由でありました。やはり学校は長四角でとても使いやすいという理由がありました。あとは当時の宮崎中学校の暖房のコストが非常に高いということも一つの理由でした。それとかなり得票数としては逼迫していた事実があります。それで当時の町長にそういう答申だということを申し上げたところ、町長も本当にびっくりしたという表情をなさっておりまして、結果として次期尚早という結論をだされたという経過です。

私個人としては、宮崎中学校は開校当初から狭かった。ランチルームがありながら、小野田中学校と一緒になったら多分ランチルームは使えない。当初から肩幅取れないスペースだったので、場が狭いかなと思いました。

○早坂教育長

関連ですが前回のことが話題になっておりますが、答申は重みがあると思っております。答申は誰から見ても客観的にみてもなるほどと、頷けるものでなければダメなのかなと思っております。それで今、小野田中、宮崎中、どちらも使っていて不都合はありません。学校環境としてはいいと思っております。ただ、どちらかにするときにはよりいいもの、或いは本当に何か不備なところはないのか、それをきちんと比較しなければな

らない。比較検討するときの評価項目、教育施設としての評価項目をきちんと、だれが見ても分かるような項目を精査して設けるべきではないかなと思います。前回のを見ると、これが評価項目に入っているのかというものも私から見えてありました。そういう意味で評価項目をしっかり吟味して、文科省にも学校教育施設としての条件がでておりますので、それらも参考にしながら、そうすれば本当に誰が見ても答申を聞いてもなるほどと、大きな差があるかどうか分かりませんが、そこが一番大事なのかなと感じました。

○鎌田委員

逆にその答申で、なんで宮崎中学校を選んだというその理由は何ですか。

○二瓶教育総務課長

大変申し訳ございませんが過去のことは後日願います。

○猪股町長

同じ轍を踏まないようにということで。

○大宮委員

今度の検討委員会の構成メンバーですが、前回と構成と同じなのでしょうか。

○二瓶教育総務課長

資料4 ページに掲載しておりますが、前は現役校長も含まれていましたが、今回は当事者でもありますので検討委員になるのは好ましくないという判断のもと外しております。それに代わる者として地域の代表に加えまして子どもたちと普段から関わりを持つ民生児童委員さんを両地区から1名ずつ、そして識見を有するものとして退職校長等を選任したいと考えております。前回とはかなり構成メンバーは違うものと考えております。

○大宮委員

施設とか評価するにあたって専門的な知識を持っているのは校長先生、学校の教職員の方が大きいと思います。できれば退職校長先生とか多めに選任されたいですね。

○大場委員

13 ページに赤字で諮問がありますが、私はこの中で全て大事だと思いますが、とても大事だなと思っているのは再編後のビジョンです。要するに魅力ある学校づくり、学校をつくる、新しくするという、生まれ変わるということなんだろうが、ビジョンを若い人たちから意見を取り入れる、検討委員でなくてもそういうものも必要ではないかと思います。せっかくいい学校をつくるために諮問しても、後からこうだったと評価ができるかと思いますが、やはりそういったものも意識して、私も私学に長くいて要するに生徒が入ってこなければ何もならないわけで、魅力ある学校づくりは大事だと思います。それで中身がどんな学校がいいのかだと思います。特色ですね。例えば二つ一緒にしたのだが、さっぱり変わらないとか、統合して良かったというような学校づくりにもっていくためには、やはり何か特色がないとい

けないと思います。逆にこの新しくできた学校によそから入ってきたいと、魅力ある学校を検討されなければならないと思います。

若い人たちの意見を聞く、アンケートなりの仕組みが出来ないかと思います。

○猪股町長

事務局で考えて、若い方々からももっと意見を吸い上げてビジョンづくりに反映できる仕組みを考えて下さい。

新しい中学校として再出発するわけですから、より魅力のある学校づくりになるようお願いします。

○鎌田委員

先ほど町長が挨拶でおっしゃった人材づくりだと思います。自分の頭で考えて行動して判断する。そしていわゆる社会で活躍できる人材を育てる学校という目的をまず明確にして、そのために統合、そしてどういうビジョンをもっていくかということによって検討していく必要があるのかなと思います。正に今求められている学校そのものだと思います。

○田中委員

今ちょうど小・中学校の子供さんが農業体験に来ておりました民泊もしております。最近年々感じるのは受け入れていて子どものままだなど。多分様々なことを経験してないし、彼らは農業を体験しにきているのですが、体験をして色々な人と関わっていくことがすごく大事だと思うのですが、今の学校のプログラムの中でそういう経験ができる隙間があるのかと思います。小学校でも体験プログラムは少なくなってきたでしょうし、自分が関わるという発想はいろいろな意味で体験が必要だなど。時間がないというのはとってもよくないと思っております。

○猪股町長

おっしゃるとおりですね。今の子と私たちの子どもの頃では大きく違うのは遊び方ですよね。昔は地域にリーダーがいて集団で遊びました。自分たちで遊びも考え、遊びというのはツールとルールとロールで、ツールは道具で、道具の使い方や道具を自分たちで工夫して作る、ロールは役割で、ルールは自分たちで決めるわけで、色々な遊びをしながら実はツールの使い方、作り方、ルールの設定、ロール役割分担と、今はゲームですから。今の子どもたちは遊びをとおして社会人として学ばないまま学ばないまま大人になってしまいます。集団の中で遊んでないので、そういうことも含めて統合中学の問題だけでなく、加美町の学校教育をどうしていくか。重要ですよ。

○大場委員

大事なことは小野田中学校、宮崎中学校では元々どんな魅力があって、どんな特色があるのか、そのようなものを地域、検討委員会のメンバーの方に把握してもらわないと。統合したときにどちらのいいものも消えたり、宮崎の時はこうだったけどとまらない様にするために、やはり両方のいいものを纏め上げていかないと。そ

のためには小学校であれば交流とかありますが、中学となると部活とか競技で色々な意味で燃えるのですが。私今まで両中学校を見ていて感動していたことは、宮崎中の生徒は運動会などでは元気がいいです。小野田中学校の生徒は文化祭とかで見ると発表が上手です。英語の弁論とかうまく、人前で話すことは大事なことで、今の子供たちは、おしゃべりは上手でお話しは下手だと言われますが、そういった意味で両方とも特色があって、今言った以外にもいいものがたくさんあるのではないかと思います。それらが統合したときに、活かせるようにしていただいて、地域の方々が良く目で確認していただいて、やはり中身が大事だと思います。統合した以上はいい学校だねと言われるようにすることがとても大事だと思います。

○早坂教育長

中学校の再編検討委員会に諮問して、それで答申が出た段階でもしそれで行きましようとなったときに、統合準備委員会が必要となります。諮問のための検討委員会と準備委員会の役割をきちんと明確にしないと、なんでも検討委員会でやってしまうと学校をつくるときに例えば両校の教職員、PTA、地域の人が入ってやるときに、それぞれの良さを持ち寄って、その良さをそのまま継続しながら、更に今まで無かったものを新しくつくるということとなりますが、この検討委員会にどこまでやってもらうかというところを吟味しながらやっていけなければならないかなと思います。その住みわけですね。重なる部分があるかもしれませんが、そこを気を付けなければならないなど。

○猪股町長

そうですね。

○鎌田委員

諮問する校舎位置、再編後のビジョン、再編時期の答申をいただく。それを受けて開校準備委員会で魅力ある学校づくりをしっかりと検討するという形でいいと思います。

○猪股町長

確認しますと前回の方針は、10年は凍結ということですが、10年も迫ってきておりますし、10年待ってから検討するとなると遅くなりますので、前倒しで統合に向けて手順を踏んで進めていくということによろしいですね。その際、中には3中学校を一つにという声もなくはないと思いますが、あくまでも今回は小野田中学校と宮崎中学校の統合ということによろしいですね。

統合にあたっては検討委員会の条例を制定し、条例に基づいて20人の検討委員によって検討委員会を組織し諮問をする。この諮問の際は、あくまでどちらの校舎を活用するかということで、それで統合の時期はどのタイミングで決定するのですか。

○二瓶教育総務課長

教育委員会としては統合時期についてはあえて触れないで、検討委員会でのご意

見をいただいたうえで、なおかつ保護者、地域の方にそのことについてご理解をいただいたうえで、正式に教育委員会で決めたいと考えております。

○猪股町長

検討委員会の諮問に校舎の位置と再編後のビジョンと時期の3点を盛り込むということですね。

○二瓶教育総務課長

はい。

○猪股町長

それでは事務局からその他何かありますか。

○早坂教育長

将来的に加美町で中学校をどうするのかという話がでるかもしれませんが、今私が考えているのは、例えば町で中学校1校となった場合は加美町の地理的なこととなると町の中に場所を設けてそこに新築するか、或いは中新田地区、小野田・宮崎地区で2校、そして小野田・宮崎地区については小中一貫とか、或いは幼小中一貫とか、違った形の考え方があるのかなど。ただこれから生まれてくる子どもたちの事になってきますので、やはりそこは時間をかけて検討すべきではないかと思えます。ただ、その検討のために目の前の子どもたちを我慢させるわけにはいかないので統合を進めるべきだと。もし、例えば将来的にはどうなんだと言われたときは、そういう考えもあるかなと私は思います。

○田中委員

前回もそれは出てました。

○猪股町長

私はそういった議論は20年とか、そういったスパンだと思います。これから20年間何が起こるか分かりません。おそらく殆ど会社に通勤しなくても働けるという時代がくるであろうと思います。働き方がものすごく変わると思います。月に1・2回出勤すればいいというような働き方は普通になってくると思います。それからかなりの確率で首都圏は地震災害に見合われると私は思っております。ですから今地方、加美町の人口が子供の数が減少していくことを前提として考えておりますが、私は必ずしもそうでないと思っております。もうひとつ大きく違ってくるのは外国人です。どの産業も外国人労働者に頼らなければならなくなります。かなりの外国人が加美町にやってきて加美町に住むことになると思います。そういったことを我々は想定に入れなければならない。単に人口が減る子供たちが減るということではないし、今町が進めている移住・定住の取り組みについても、この3年半で町の制度のみを活用して移住してきた方が123人おります。その結果、国立の社会保障人口問題研究所の生産年齢人口15歳から64才までの人口の推計を335人上回っております。平成30年度で。移住・定住のまちづくりを進めていくことで、一定の歯止めがきくと思っておりますし、今申し上げたように外国人が間違いなく増え

るし、それからいずれ様々な諸条件から首都圏から戻ってくる方が十分にあり得ると、またよそからも加美町の中学校にきたいと、全国から中新田高校にきたいとなるような学校づくりをしなければならないし、私は新たに就任した中新田高校の校長先生に是非スポーツ系をつくろうと書いてます。公立高校にはゴルフ部はありません。スポーツ系とはゴルフだったり、カヌーだったり、空手だったり、或いはボルタリングだったり、そういうプロのスポーツ選手或いは将来スポーツを仕事にできるような人材を全国から集めるような学校にしたらどうでしょうかという話をしているのですが。決まった枠の中だけで考えるのではなく、どうしたら広くこの町に学校に人がくるかです。

○鎌田委員

余談ですが、前から思っていましたが高中に音楽科、音楽のまちということで、ずっと思っていて、中高の教務の先生方と話していました。県内の公立高校ではありません。そういうふうなところで特色を出せるのではないかと。だいぶ前から話してましたが、なかなか難しいですが、それを実現できれば正に色々繋がっていくのかなと考えてます。

○猪股町長

実は私、福祉大学の方に話をして、連携ですね。中高に入って福祉大に行ってプロを目指すという流れが出来たら全国から人が集まると思います。音楽も同じだと思います。音楽も国立がありますから連携をとって音楽を仕事にする人材もいると思いますし、国立も今回39名で全国から北海道、福岡、愛知、東京、東北六県からもきてます。

○田中委員

いい町だと思えるのは、ここに住んでいる私たちが思えないと。

○猪股町長

そうですね。

○大場委員

15ページに将来のイメージとありますが、この中で小中一貫教育とありますが、もちろん色麻学園とかやっておりますが、私は小中高と出来ないのかなと思っているのですが、将来学校は繋がっていた方がいいのかなと思うのです。特色ある学校、魅力ある学校であれば都市部からも集まってくるだろうし、先ほど中高の話しを聞いて、私感心して聞いておりました。一つの戦略ですよ。この辺が一番大事ではないのかなと思います。

○猪股町長

はい。そうですね。

○早坂教育長

中高連携というのはあります。県立と町立の違いがあります。古川黎明の場合は県立です。中高一貫を進めるとなると町と県で考えなければなりません。連携は大

丈夫ですが。

○大場委員

いいですね、全国初の小中高一貫校というのは。

○早坂教育長

そこに幼稚園も入れて。幼小中と更に高校も入れて。色々な壁はあると思いますが。

○猪股町長

海外の日本人学校ですが、私の家族も入りましたが、幼小中が一つの敷地内にあります。年齢の壁を越えて遊んでいる。いい環境だと思います。

○田中委員

ドイツ学園もそうですね。幼稚園から高校まで。

○大場委員

ドイツは大学まで無償です。

○猪股町長

それでは多岐にわたってご意見を頂戴しましてありがとうございました。

○佐藤総務課長

大変ありがとうございました。総合教育会議ですが本年度教育施策の大綱についても議論いただきますので、次回議案としてお願いすることになりますのでよろしくをお願いします。閉会にあたりまして早坂教育長より閉会のあいさつをお願いします。

○早坂教育長

長時間にわたる熱心な議論ありがとうございました。中学校再編基本方針の見直しということで、学校再編に係る基本方針を共通理解することが出来たのかなと思っています。やはり子供たちの教育環境、より良い教育環境をつくるということは、町、教育委員会の大きな責務ではないのかなと思っています。この方針につきましては、この後、午後からの臨時教育委員会で承認を頂いて、これを更に進めていくことになりますのでよろしくをお願いします。本日はどうもありがとうございました。